

二人の証人

2026年5月17日

ヨハネの黙示録 11章1～14節

序：大患難期の前半～後半の間にかかること 10章～14章

第7のラッパ ⇒ 後半の鉢のさばき

10章 ヨハネに7つの壺が降ったこと（書き記すな、伝えるな）

〃 が受け取って食べた小さな巻物（甘くそして苦い神のことば）

この後の全世界のあらゆる民族や王について預言せよ（味わい、伝えよ）

11章 二人の証人 第7のラッパ

12章～14章 鉢のさばきまでの長い挿入部（中間～後半にかかることの解説）

I. 中間期

- (1) 神殿が建てられ、ユダヤ人たちが神を礼拝するようになっている
- (2) 大患難期後半（42ヶ月、1260日）聖都は異邦人に踏みにじられる
- (3) 二人の証人がその間預言する

II. 二人の証人（144000人の直教と並行）

(1) ゼカリヤ4:3、11～14の成就（全地の主の側に立つ二人の油注がれた者）

(2) 主が彼らに与えた力、権威

① 彼らに害を加える者を口から出る火によって焼き尽くす

② 天を閉じる（雨が降らないように）権威

水を血に変える（水を腐らせる）権威

地を打つ（あらゆる災害で）権威

(3) 証言の期間が終了する時、底知れぬところから上ってくる獣が彼らを殺す

反キリスト

一度死んで復活（多くの人々が彼を信じた理由）

誰も殺せなかった二人の証人を殺したから

(4) 二人の死体は葬られず、エルサレムの大通りにさらしものにされる

（かつて王イエス・キリストも十字架につけられた所）

全世界の人々が三日半の間、注目する（ハイテクの時代ゆえ可能）

(5) 証人たちに苦しめられ、悩まされていた不信者たちは、二人の死を歓迎し祝う

(6) 三日半後、神から出たいのちの息が入り、生き返った（人々の驚愕と恐怖）

(7) 天からの「上れ」という声を聞いて、昇天（敵の目前、雲に包まれて）

(8) 神のさばき＝大地震（都の1/3崩壊、7000人死亡） / 残った者の改心

III. 結び

(1) 神が定められた時まで、守られて神に仕える（生きるも死ぬも主のもの）

(2) この二人の証人の死と復活は、主イエス・キリストの場合と重なっている

(3) 私たちの死は永遠の御国への門口、復活の希望と保証がある / 失望なく、平安